

NPO法人みなと計画

2023年の活動の振り返り



Web



note



X (旧Twitter)



Facebook

2023年の活動の振り返り

2023年も様々な活動、新しい取り組みを行いました。

特に今期のみなと計画は、志を同じにできる団体との連携や、テーマを絞ることでこれまで出会えなかった若者との接点をつくるなど、「全ての若者」へのアプローチを加速させられました。

そんな一年の出来事を月毎に振り返ってみましたので、見出しだけでもご覧頂けましたら幸いです。

1月 一年の計は一月にあり！

仕込みの日々

新年早々の動きは、後述の他団体との連携（北海道NPOファンドさん、いとのこさん、D×Pさんなど）の事前調整の日々でした。

この仕込みが一年かけて形になっていることが実感されています。

2月 EBETSUtoがまちに立ち位置を確立

EBETSUto×えべつシティプロモート

江別シティプロモート推進協議会が運営するInstagramに、2～3月にかけてEBETSUtoのメンバーが投稿をし、20代のフォロワーを増やす連携企画を行いました。

その年代に近い大学生の目線でまちの魅力を発信しましたが、若者目線の取組＝EBETSUtoという立ち位置が3年かけて確立されたことを感慨深く思っています。

3月 年度末に対話を深める

対話イベントBlue D-DAY IN DEEPの開催

例年行っていた若者主体の分科会形式のフォーラムBlue D-DAYのスピノフとして、対話に特化したイベントを開催しました。

「そこにあることを問う」をテーマとして、それぞれが興味を持つお題を出し、ただひたすらに深く潜る対話の時間を過ごしました。



4月 ”全ての若者”を視野に入れるために

自分のまちでのLGBTQ+の暮らしを考えるマッシュアップイベント

今年度から、北海道NPOファンドさんと連携して休眠預金を活用した助成金事業の分配団体の運営に関わり始めました。

セクシャルマイノリティや障がいについて、大学の先生が「大学にも当事者はいるはずだけどそれが見えていないし、十分なフォロー体制もない」と話されていましたが、こういうプロジェクトに関わることでこうした課題にも対応できればと考えています。

5月 想いを大切にしてもらえる場づくり

【第二回】自分のまちでのLGBTQ+の暮らしを考えるマッシュアップイベント

4月に引き続き行われたこの回で、応募に向けたより具体的なお話し合いが行われました。複数の専門分野にまたがるテーマのため、連携団体を探す意味合いもありました。この後、選考を経て現在3団体が3年間の事業に取り組み始めています。

EBETSUtoキックオフ

大学生がまちと関わるきっかけを作り、自分の「ホーム」と感じてほしいと始めたEBETSUtoも4年度目になりました。

4月には新メンバーを交えてキックオフを行い、EBETSUtoコーディネーターやまちの大人たち、江別市役所やEBETSUto卒業生も集まり、取り組みたいアイデアを出し合いました。

6月 連携と循環を実感

一般社団法人いとのこ連携開始

かねてより親交のあった「一般社団法人いとのこ」さんが始められる高校生の居場所づくりの連携に向けて、拠点となるシエスタハコダテ4階のGスクエアにてお話し合いをしました。道内で若い世代を育む活動をする団体と手を取り合うための一歩です！

みなと基金×EBETSUto

みなと基金で留学の夢を応援した若者が、帰国後にEBETSUtoの若者の留学希望者をサポートした例が生まれました。このように事業を横断して若者がつながっていく機会を作っていくことが理想でしたので、とても嬉しく思います。



7月 連携の輪は道外へ

NPO法人D×P連携開始

みなと計画の目標である「全ての若者が未来に希望を持てる社会」のいち早い実現には、同じ志を持つ団体との連携が欠かせないと考え、10代を主とした若者の孤立を防ぐ活動をしている大阪拠点の「NPO法人D×P(ディーピー)」さんとの連携を始めました。D×Pさんが受ける相談のうち、より複雑なケースに対して一緒に対応をするケースが増えています。

8月 あの手この手で接点を模索

えべつまちなかアート月間キックオフ

江別市内の様々な場所に約1ヶ月間若手アーティストの作品が展示されるイベントです。お呼びかけに応じて下さった15名の実行委員会の方達と走り抜けました。

大学カウンセラー事情勉強会

現在の大学生が学生相談室をどのように利用しているのかや大学内の対応方法について学ぶため、酪農学園大学のカウンセラーさんを講師に、内部での勉強会を行いました。ここから、他の大学の学生相談支援室同士の連携も進めていくことが目標となりました。

9月 実験的イベントに注力

EBETSUtoピクニック

若者の「大人と話す、関わる機会が欲しい」という声から、年齢や肩書を置いてフラットに出会い共に過ごす時間が持てるように企画。えべつ観光協会主催「えべつマルシェ」の一角にピクニックエリアを展開し、多くの来場者との交流を深めました。

No Maps Social参加

北海道を舞台に新しい価値を生み出す試みのイベント「No Maps」。ここから派生した「No Maps Social」が今年初開催され、社会的課題に向き合う人達が垣根を超えてパートナーシップを結ぶことを目的としたセッション「現場市場主義」を企画しました。みなと計画として対外的なイベントに出演することはあまりありませんでしたが、この機会に初めて関わる方々に周知を行うことができました。



10月 道内NPOの輪も大切に

北海道NPOフェスティバル

北海道NPOサポートセンター主催の通称「Nフェス」に、みなと計画も参画。20代の若者のNPOでの働き方を考える分科会の企画運営を担当しました。
これをきっかけとして、若者がNPOで働きはじめ、働き続ける環境づくりを道内のNPOと共に仕掛けていきたいと考えています。

えべつまちなかアート月間開催

8月から仕込みはじめたアート月間がついにスタート。
昨年よりパワーアップし、出展作家さんも展示会場も増え、さらに展示だけに留まらず、往来でのライブペイントや壁画アートなど、市民も巻き込んだの活動に発展しました。

11月 ノウハウの共有という連携

話しの聴き方研修

「いとこのこ」と始めた高校生の居場所づくり事業「みちどこ」の運営スタッフから「高校生の話しの聴き方を知りたい」というご要望がありました。そこで、これまでの経験も踏まえて、話しの聴き方研修を行いました。
単なるノウハウ伝授ではなく、現場で実践されているスタッフの経験を大切に、お互いに学び合うスタイルで行いました。今後も実践と振り返りを定期的に続けていく予定です。

12月 やっぱり現場至上主義

すすきの現地踏査

札幌地下鉄大通駅で若者が起こした騒動と行政の対応に疑問を覚え、関わりのある団体にお声がけをして何度か意見交換を行いました。
その中で出た声として、コロナ禍を経て都市部の若者がどこに集まるようになっていのかをあまりに知らない、現地を歩いてみようということになりました。

ガイドさんにまちの成り立ちの歴史もお聴きしながら歩くことで、記号としてしか知らなかった「すすきの」が実体のあるまちとして感じられました。
やはり現場に足を運ぶことは、人と向き合うことと同様に大切なことです。



まちなかアート月間クロージング、そして...

アート月間に関わることでなにを得られたのかを、それぞれが持ち帰るためのクロージングの会を行いました。皆さんの予定がぜんぜん合わず、結局同じ内容で4回開催する力技でしたが、その回ごとの人の組み合わせでまったく質感の異なる内容になりました。

そして年に一回のイベント開催だけではなく、若手作家をまちぐるみでサポートする通年の取組に発展させていく構想もお伝えをしました。

年度内に詳細を皆さんにお伝えを出来ると思います。(早く言いたい！)

2023年のみなと基金申請件数

2023年のみなと基金への新規申請件数と対応状況は以下のようになっています。

新規申請：11件	▶	給付済：3件
		検討中：3件
		見守り継続：2件
		解決：3件

申請に対して給付が少ないのでは？と思われるかもしれませんが、相談のみで自己解決する場合や、早計な給付が事態を悪化させる可能性を感じる場合もあります。

人生を左右するものですので、どのタイミングで、どれだけ給付をするのが良いのかを運営委員会にも相談をしながら、慎重に判断をしています。

深刻な相談の場合、複雑な家庭事情を抱えていることが多いと感じられます。

そうならざるを得ない環境に置かれ続けていたことが原因であり、こうしたケースでは表面的な部分を見て給付判断をするのでは、根本的な解決にはなりません。

相談者の暮らしの近くで頼れる人とつながっていくことが、生き続けるためには大切と考えています。給付はあくまで一つ的手段としながら、この「生き続けられる」ようになるための視点を持ちながら対応をしています。